Factors associated with tuberculosis cases in Semarang District, Indonesia: case-control study performed in the area where case detection rate was extremely low

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/44636

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

論文内容の要旨及び審査結果の要旨

受付番号　医博甲第2516号　　氏名　Sri Ratna Rahayu

論文審査担当者　　主査　市村　宏　印

副査　中尾　眞二　印

中村　裕之　印

学位請求論文

題　　名　Factors associated with tuberculosis cases in Semarang District, Indonesia: case-control study performed in the area where case detection rate was extremely low
（インドネシア セマラン地域における結核患者に影響する因子：特に患者発見率の低い領域における患者対照研究）

掲載雑誌名　Environmental Health and Preventive Med
DOI 10.1007/s12199-015-0443-9,　2015年4月16日掲載

インドネシアは世界第4位の結核蔓延国である。中でも、中央ジャワのセマラン州は症例検出率(Case Detection Rate, CDR)が極端に低く、地域的結核有病率の上昇に寄与していると考えられることから、調査地域とした。この低CDRをもたらしている因子の発見のため症例対照研究を行った。地域保健センターに登録されている結核症例129例に対し、同センターを受診し結核ではないと診断されたものの内、年齢調整できた対照群83例に対し、調査票を中心とした環境･生活調査を行った。

結果は以下のようにまとめられる。

1. 症例群は平均一人当たり 7.5 ± 2.3個の結核関連症状を示していたが、対照群は1.0 ±1.7個であった。症例・対照に関わらず結核の症状・防護法を理解していなかった。
2. 多重ロジスティック回帰分析を行うと、結核感染のリスクとして、農業、他の結核患者との接触、Bacillus Calmette-Guérin (BCG)を受けたか否かの記憶が無い、喫煙、低収入、食事前に必ずしも手洗いしない、咳・くしゃみの後手洗いしない、多人数での同部屋のシェアー、土の床、太陽光の無い部屋、換気のされていない部屋が抽出された。

以上より、症例・対照に関わらず結核の症状・防護法に対する無理解が診断の遅延を引き起こしていること、生活環境が結核感染に強く関連しているが速やかな改善の困難な項目が多いことが明らかとなった。従って、地域単位での結核予防計画を改善・周知することが当面の対策として妥当であると考えられた。

本論文は、結核蔓延国であるインドネシア・セマラン地域における結核有病率の上昇に寄与する因子を明らかにした論文であり、博士（医学）の学位に値する労作であると評価された